



Takuya Nakamura
Kissoo Marufuji

Code for Hakodate(コード・フォー・ハコダテ)
コアメンバー

函館市地域交流まちづくりセンター
センター長

中村拓也 丸藤 競

中村拓也 [プロフィール]

1986年函館生まれ。立教大学観光学部卒。映画用ビデオカメラの説明員、デジタル機器メーカーの営業、アンテナショップ・コミュニティカフェ・商店会の事務局の運営会社、NPOでのイベント事務局業務など、10年間の首都圏生活を経て2016年函館に戻る。
現在は映像関係の仕事を行う一方、ITで地域課題の改善を試みる"Code for Hakodate"の活動も行っている。

【聞き手】函館市地域交流まちづくりセンター長 丸藤 競

今回は、学生さんなどと一緒にITを通したまちづくりを行っている、
中村拓也さんにお聞きしました。



はいまち対談

「余白」の魅力と「マニケーン・コスト」

対談

丸藤 函館に「お帰りなさい」ですね。
中村 やつと戻って来れました。就職活動の際に函館で観光・地域・IT・メディア関係の分野で仕事がないかと探していたんですが、見つけられなくて。それならとまずは首都圏で働き始めました。

大学で学んできました」と

丸藤 観光学を学んだと聞いています。
中村 大学受験の時点で、住んで働くなら函館だなと思っていたので、それまでは一度外に出よう(笑)。それなら盛り上がりしている観光の分野だろうということに入学しました。その頃には「観光まちづくり」に興味を持っていたのですが、3年生になるとまでその分野の講義が始まらず、それよく顔を出してました。

丸藤 その講義はどうのよくな」とを。
中村 ざっくり言うと、「地域の課題の解決はその分野のプロがたくさんいるので、問題や課題を見つけましょう」というものです。各地の解決事例を見つつ、自分たちで課題点を更に考えていくという内容でした。でも考えてみると、函館の場合は観光の分野以外についても日常会話やSNSやブログ、あとまちづくり系のイベントなどから毎日のように課題が挙がっているので、むろそいついた情報をまとめて、解決する人がもっと必要ですね(笑)。

丸藤 ITで地域を良くするという活動をしていますね

中村 Code for Hakodate(コード・フォー・ハコダテ)ですね。代表は、は



中村 横浜に居た頃、企画というか、色んなやりたいことを思いつくんです。それが全部函館ネタなんです。何か思いつくとなつたのものこのタイミングで、戻る時期なんかなど。

丸藤 やりたいことがたくさんですね。色んなことをやっている人がたくさんいると、まちは面白くなりますからね。たくさんいると思いますよ。能力のある人も。

中村 そういった人たちとやりたいことがたくさんあって。1つ何かをやると、3つくらいやりたいことが増えるんですよ(笑)。楽しいですよ。

丸藤 函館に戻ってきたのは?

中村 2016年の3月です。北海道新幹線開通直前(笑)。

丸藤 運命だと?

中村 偶然横浜で「アイデアソン」「ハッカソン」という、1~2日カンヅメをしてアイデアを出したりとかアプリを作っちゃおう、というイベントに参加したらそれが楽しくて。話を聞いてみたら、誰でもどこでもやつても良いということだったので、函館でもやろうと考えていたんです。そのタイミングで、はこだて未来大や教育大函館校の学生と一緒にそれを開催したり、僕らより先にCode for Hakodateという名称で活動していた函館の中学生と一緒にになつたり、タイミングよく函館の会社で働けたりなど、色々ありました(笑)。

丸藤 函館が中村さんを必要としたんですね。

中村 仲間がいたからこそだと思います。高校の時はそもそもなかつたんですが、むしろ函館を出てからの方が函館市内いろいろな所に行つたり話ができるようになつて。当時函館どつくにあつた門型のレーンの記録映像を作つたり、そいやつつなが

いるんですけど、数えてみたら當時で400件くらい(笑)。それと色んな偶然が重なったのものこのタイミングで、戻る時期なのかなと。

りができたので、細々とでも続けてきてムダじやなかつたんだなあと思いました。あ、丸藤さんも勝手に仲間だと思つてます(笑)。

函館の観光

中村 函館の観光についてはどう思いますか?

丸藤 函館の観光が楽しめるベタなスポットも、個人客が楽しめるディープなスポットも豊富ですよね。そんなこんなで観光資源が多くて、友人が来た時にはどこに連れていくかチョイスに困ります(笑)。

中村 課題は?

丸藤 携帯電話の充電ができる場所が少ないとか、外貨両替ができる場所がないとか:具体的にはたくさんあります。ただ、これは逆にチャンスだなと。課題を二つ実現していけば観察の人たちが来てくれて、更に地域にお金が落ちますよね。そういう人たち向けの報告書とかコンセプトブックなんかの資料を作つて売つても良いでしょうし。

失敗体験と伴走してくれる人

中村 あと、色々学生時代やりたいことを各所に相談したりしたんですが、なかなか理解してもらえないかつたり、やめたほうがいいとか言われたりつてのはありましたね。結局諦めようとしても諦められなかつたんですけれど。

丸藤 やらない理由探しですね。それは観光以外でも見られます。

中村 「これは以前失敗したからやらなければいけない」、「この人はこうだから話しても無駄なんだ」という言葉を時折耳にしますけど、それってある種のトラウマになつていてるからかなと。でも、状況も人も時と共に変わりますので。「しくじり先生」のように過去の失敗を笑いながら振り返る

機会はぜひほしいですね。

コミュニケーション・コスト

中村 それと他の地方都市にも言えることですが、函館は「コミュニケーション・コスト」が高いということに最近気付きました。日常生活でひと人と何気ないコミュニケーションをすることが大変なんです。個人間でも団体間でも。それ違います。明日こんなイベントがあるよとか何とか何気ない話が、車に乗つてるとできないです。連れていくかチョイスに困ります(笑)。

中村 団体客が楽しめるベタなスポットも、個人客が楽しめるディープなスポットも豊富ですよね。そんなこんなで観光資源が多いです。それでも団体間でも。それ違います。明日こんなイベントがあるよとか何気ない話が、車に乗つてるとできないです。連れていくかチョイスに困ります(笑)。

中村 ひたすらフォローしてみてください。まずは200人くらい。楽しい世界が一気に広がりますよ。それと、将来函館に住み続けたいという思いがあつたら、逆に一度函館に住みながら旅行でも良いです。函館の良さとか課題とか、相対的に自分のまちを捉えられるというのはとても大事ですか。函館に戻りやすい環境を作るには僕らが必死でやるつことで(笑)。

丸藤 学生さんと一緒に活動する場が多いと思いますが、アドバイスを。

中村 もしTwitterやFacebookを使つて函館に住んでみることをオススメします。函館に住みながら旅行でも良いです。函館の良さとか課題とか、相対的に自分のまちを捉えられるというのはとても大事ですか。函館に戻りやすい環境を作るには僕らが必死でやるつことで(笑)。

中村 学生さんにアドバイス

丸藤 学生さんと一緒に活動する場が多いと思いますが、アドバイスを。

中村 もしTwitterやFacebookを使つて函館に住んでみることをオススメします。函館に住みながら旅行でも良いです。函館の良さとか課題とか、相対的に自分のまちを捉えられるというのはとても大事ですか。函館に戻りやすい環境を作るには僕らが必死でやるつことで(笑)。

中村 色々な声が形になる可能性を秘めています。函館をもっと楽しく過ごせるようになるかも知れません。